様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 １８ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０３８９

研究課題名（和文）碑文、絵画、画報資料を利用した祭祀芸能組織の研究及びその利用に関する方法論の確立

研究課題名（英文）A Study of the religious service entertainment organization using epitaphs, pictures, pictorial documents

研究代表者
櫻井　龍彦（SAKURAI, TATSUHIKO）

名古屋大学・国際開発研究科・教授

研究者番号：６０１７０６４３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、北京と天津を中心とした廟会とそれに奉仕する祭祀組織について、現地調査に基づき碑文、絵画、画報資料を利用して研究をおこなったものである。
現地調査については、妙峰山、?髻山、葛沽鎮を集中的に調べた。碑文については、妙峰山、?髻山、葛沽鎮以外に東岳廟、泰山、媚洲島などで大量の資料を収集した。絵画資料については、『妙峰山進香図』と『天津天后宮行会図』を閲覧できた。画報資料については、『大公報』と『北洋画報』から1930年代の記事と写真、広告を収集できた。学会発表は4回、論文は7本、そして3年間の研究集大成として報告書を1冊刊行した。

研究成果の概要（英文）：This study studied the religious service entertainment organization which served the temple festivals around Beijing and Tianjin using epitaphs,pictures, pictorial documents based on a field work.
About the field work, I investigated Mt.Miaofengshan, Mt.Yajishan, Gegu village intensively.About the epitaph, I collected a large quantity of documents in Dongyuemiao, Mt.Taishan ,Meizhoudao island any place other than Mt.Miaofengshan, Mt.Yajishan, Gegu village.About the picture document,I was able to see "Miaofengshan Jinxiang Tu "and" Tianjin Tianhougong Xinghuitu".
About the pictorial document, I was able to collect articles , photographs and advertisements of the 1930s from "Da Gongbao" and "Beiyang Huabao".I did four times of presentations at the International symposium, published seven articles and one report which collected studies for 3 years.

研究分野：民俗学

キーワード：廟会　民間信仰　道教　仏教　祭祀組織　女神

１．研究開始当初の背景

（1）北京と天津を中心とした廟会とそれに奉仕する祭祀組織の研究について、平成 16、17 年度に萌芽研究「妙峰山廟会における民衆の信仰組織（香会）とその活動に関する基礎的研究」、平成 18～21 年度に基盤研究 B「北京・天津を中心とした華北の廟会と祭祀組織「香会」の実態研究」が採択され、その成果は 4 冊の報告書として公刊した。これらの研究の特色は、従来のような文献を資料とした歴史研究ではなく、実地調査による参与観察と聞き取りを手法とした現在の実態の把握と考察を行った点にある。

しかし歴史研究でないがために、祭祀組織の成立の由来や歴史的沿革などについては、十分には把握できていなかった。今日中国では、文化遺産保護政策との関係でこうした伝統祭祀組織が軒並み復活している現状を理解するには、過去までさかのぼり、過去からの経緯を射程に入れておく必要があると痛感していた。

（2）　2 つの科研費調査の過程で、廟には清代から民国時代の貴重な石碑が残存しているだけではなく、現在も石碑が年々献納され増加しつづけていることを発見した。石碑には香会の組織構成（人名、役割）や興廃の理由、復活の経緯、ときには霊験などが刻字されていて、組織の実態を知る上で不可欠の情報であることがわかった。妙峰山の古碑に関しては、上記の報告書に写真記録を収め、碑文も可能な限り解読して掲載したが、それを活用するまでにはいたっていなかった。

（3）一方、北京や天津の廟会については、清末、民国時代に描かれたと思われる絵画があることがわかっていた。絵画からは解放前の廟会の様子がうかがえ、それを現在の活動の様子と比較することで約 200 年間の変遷が捉えられると思われた。

（4）また『北洋画報』、『益世報』、『大公報』などのような当時発行された古い画報には、主として 1930 年代の廟会に進香する組織や一般大衆の写真や廟会開催を通知する広告も掲載されている。廟の盛況ぶりと民衆の動向を大衆メディアが伝えたものとして活用すべき資料であるという認識はあったが、時間的余裕がなく着手していなかった。

２．研究の目的

（1）史学の分野で、碑刻史料は過去の地域史研究として活用される。その目的は、当然のことながら現在活動している信者の日常的生活実践や地域社会の構造的な解明ではない。しかし本研究が目的としたものは、過去の歴史研究と現在の民俗研究を方法論的に結合させ、信仰と芸能にたずさわる人びとの社会史的な意義をさぐることにある。

（2）具体的には『妙峰山進香図』、『妙峰山過会図』、『西頂過会図』や『天津天后宮行会図』などの絵画に描かれた進香の光景から、芸能集団でもある香会の多様な奉納芸能や祭祀儀式がわかるので、その過去の伝統を現在の祭祀芸能の姿と対照する。

（3）画報類は主として天津になるが、写真のみならず、廟会をニュースとして伝える記事や広告文から、天津で皇会が中断した 1936 年以前の伝統から現在までの系譜的研究が可能となる。

（4）本研究は、廟会やそこに進香する祭祀芸能組織の実態を考察する上で、碑文、絵画、報道写真、広告などの史料を活用することにある。しかしこうしたメディア的な文字史料や画像類をどのように使えばよいかという方法論的な課題が残っている。史料のもつ価値はどこにあるのか、史料のどの部分を研究対象とするのか、何をどのように読み取るのか。碑文も絵画も史料としての限界があるので、それを十分に認識した上で、物質史料を媒介とした歴史学と民俗学の方法論的な結合をめざし、それが可能となる事例研究を実現することも目的とした。

３．研究の方法

上記の研究目的を達成するために、以下の 5 つの方法を平行して実施した。

（1）現地調査、（2）碑文の収集、（3）絵画資料の閲覧、（4）画報資料の収集、（5）学会発表。

（1）現地調査

①北京では、妙峰山、丫髻山で廟会が開催される時期に行き、進香に来る香会組織と石碑の調査をする。

また東岳廟に大量の石碑が保存されているので、そのなかから香会のものを探しだし撮影記録する。

②また北京では大覚寺に妙峰山信者の墓が残っている。関連する伝説も豊富なので現地で聞き取りをし、大覚寺から妙峰山に至る古道も踏査してみる。

③天津では、媽祖を中心に 11 体の娘娘を信奉する祭祀組織がある葛沽鎮を集中的に調べる。

④華北の廟会に祀られる娘娘神を小さな神と大きな神に大別したとき、本研究が対象とするのは大きな神になる。それは主として北京（妙峰山や丫髻山）の碧霞元君と天津（天后宮や葛沽鎮などの媽祖である。この二人の女神の発祥地は山東省の泰山と福建省の媚洲島にある。そこで発祥地で関連の碑文と写真資料を収集する。

（2）碑文の収集
（1）の現地調査によって北京では妙峰山、北頂、丫髻山、東岳廟、大覚寺など、天津では天后宮など、山東では泰山など、福建では媚洲島などにおいて寺廟に残る記念碑、建立碑、功徳碑など多様な石碑の写真をとる。

（3）絵画資料の閲覧
①妙峰山関係の絵画は所在確認からはじめなければならない。『妙峰山進香図』、『妙峰山過会図』、『西頂過会図』の 3 点について、所在を確認したあと、所蔵機関に閲覧の許可を取る。

②『天津天后宮行会図』は天津の天后宮に模写があるので、閲覧の許可を取る。

（4）画報資料の収集
画報類も日本の研究機関が所蔵するもの以外は中国で探さなければならない。まず『北洋画報』、『玫瑰画報』、『益世報』、『大公報』が閲覧できる機関をさがすことから始める。

（5）学会発表
毎年 1 回は海外での国際学会に参加し、本テーマに直接、間接に関わる内容の発表をする。

４．研究成果
（1）現地踏査
北京では妙峰山、丫髻山、東岳廟、北頂、大覚寺などで廟会に参加するとともに、進香者に聞き取り調査をした。
天津では蘇庄、大宋庄、大楊庄、葛沽鎮、塘沽鎮を中心に祭祀芸能組織の会長、会員、郷土史家、文化局文化財担当者などに聞き取り調査をした。
福建省では媽祖信仰の調査のため、莆田、媚洲島などを調査し、廟管理者や信者に聞き取り調査をした。
山東省では沿海部には媽祖関係の廟があり、内陸の泰山には碧霞元君関係の廟があるので、威海、長島、泰山、青島などを調査した。
以上の聞き取り調査による成果は 2015 年に最終報告書として出版した『華北地区的廟会及其民間祭祀組織（香会）的調査記録与考察－以北京・天津為中心』総 470 頁に収録してある。訪問記録は文字起こしをしたものを 30 件収録した。こうした訪談記録は類例がなく、今後の研究者に一次資料として提供できる価値が高いものである。

（2）碑文の収集
北京では東岳廟と北頂で 200 枚以上の写真撮影をした。妙峰山では古碑とは別に、近十数年の間に奉納された新しい石碑が 22 座くらいあることを確認した。丫髻山は近年若干増えている程度であった。大覚寺においては信者の墓のありかは確認できたが、墓碑は土地再開発で個人宅内にあって見ることはできなかった。

（3）絵画資料の閲覧
首都博物館で『妙峰山進香図』を閲覧できた。これは一般公開していない貴重な絵画で、閲覧の許可を得るために時間と労力をかなり使った。しかし結局、撮影は不許可とされたため、この絵画を利用して研究を進めることは困難と判断した。
2014 年に開館した妙峰山香会博物館には個人蔵の香会図が展示されていたので写真撮影はしたが、作者、時代、対象、意図等が不明であるため、資料価値そのものの調査から始めなければならず、今後の活用について課題が残った。
天津では天后宮で『天津天后宮行会図』を閲覧できた。しかし状況は首都博物館とまったく同じである。関係者の好意で閲覧はできたが、撮影は許可されなかった。

（4）画報資料の収集
『大公報』と『北洋画報』から関連資料を収集した。画報そのものが長年にわたる出版物である上に索引がないので、膨大な資料から探し出すのに相当な苦労があった。天津については、1936 年の皇会活動は中断しているので、30 年代を中心に探した。それ以外の画報については、所蔵機関が判明しても閲覧ができなかった。
泰安の岱廟には大量の泰山廟会と祭祀組織に関する写真が展示してあり、すべて写真撮影できた。今後の研究に活用したい。

（5）方法論の確立
碑文や絵画、写真、広告などの大衆メディアを利用した地域史、信仰史、民俗史、芸能史からの総合的アプローチを可能にする方法論を提示するためには、利用目的にそった史料価値、素材としての限界、分類の基準、分布域など多方面から検討しなければならない。そうした方法論を視野に入れつつ具体的事例をとりあげて考察した成果が、櫻井「媽祖文化在日本的展開-其伝来与分布以及吸収与利用」や研究協力者の趙彦民による「村落行政変遷下的信仰空間」、「地方社会祭礼文化的形成与重建」、「民国时期郷村精英与権力結構」などである。

（6）学会発表と台湾での調査
発表は台湾で 2 回、大陸で 2 回おこなった。このうち 2012 年、台湾（台中）での「臺中媽祖國際觀光文化節―媽祖國際學術研討會」は招待による基調講演であった。そのおりに鎮爛宮媽祖廟も調査できた。
2014 年、台湾（台南）で観音信仰に関する国際学会に参加した。そのおりに台南の斗母廟や天后宮（媽祖廟）を調査でき、大陸と台湾との比較の観点を得ることができた。

（7）学術交流

天津大学馮驥才文学芸術研究院は現在、天津の皇会を調査し、各皇会の報告書を順次出版している。2013 年に天津大学で開催された「当代社会中的伝統生活」国際シンポジウムに参加できたことで、双方の研究状況を報告し合う機会が得られたことは、今後の研究を進展させる上で有益であった。

2012 年と 2014 年、台湾における国際学会では韓国側の研究者と交流ができ、韓国における媽祖信仰について知見を得ることができたと同時に、台湾研究者の媽祖信仰研究の状況についても知ることができた。

（8）論文・図書

① 4 年間で 7 本の論文を発表した。研究協力者の趙彦民氏は共著もふくめて計 4 本あり、それらは『華北地区的廟会及其民間祭祀組織（香会）的調査記録与考察』に収録した。

② 2015 年夏に出版予定の『世界女神神話事典』原書房に、廟会で祭祀される道教、民間信仰の女神（娘娘）についての概説と 10 項目を執筆した。執筆の内容は科研費研究によって得られた娘娘信仰の知見にもとづいている。

③ 3 年間の成果を報告書にまとめ、『華北地区的廟会及其民間祭祀組織（香会）的調査記録与考察－以北京・天津為中心』総 470 頁として出版した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計７件）

① 櫻井龍彦「災害与観音・地蔵信仰」『觀音信仰國際學術研討會會議論文集』査読無、2014 年、p193－209
② 櫻井龍彦「敬老文化与民俗学－従日本民俗学史来看的成果与課題」『重陽与亜洲孝道文化国際論壇暨国際亜細亜民俗学会第 15 次学術大会会議論文集』査読無、2014 年、p353－362
③ 櫻井龍彦「関于日本伝統村落的保護問題」『村落遺産』中国伝統村落保護与発展研究中心、査読無、2013 年 2 期、2013 年、p18－20
④ 櫻井龍彦「民俗創造生活、民俗重建生活」『当代社会中的伝統生活国際学術研討会論文集』天津大学馮驥才文学芸術研究院、査読無、2013 年、p31－44
⑤ 櫻井龍彦「年中行事的意義与民俗重建」『第 12 届国際アジア民俗学会年会兼東亜端午文化国際学術研討会論文集』楽学書局（台湾）、査読有、2013 年、p117－145
⑥ 櫻井龍彦「人口稀疏化的鄉村的民俗文化伝承危機及其対策」『民俗研究』、査読有、2012 年第 5 期（総第 105 期）、2012 年、p121-129
⑦ 櫻井龍彦「媽祖文化在日本的展開–其傳來與分佈以及吸收與利用」『2012 台中媽祖国際観光文化節-媽祖国際学術研討会論文集』台中市政府文化局編印、査読無、2012 年、ｐ31-48

〔学会発表〕（計４件）

① 櫻井龍彦「災害与観音・地蔵信仰」『觀音信仰國際學術研討會』2014年10月18日、台南（台湾）
② 櫻井龍彦「敬老文化与民俗学－従日本民俗学史来看的成果与課題」『重陽与亜洲孝道文化国際論壇暨国際亜細亜民俗学会第 15 次学術大会』2014 年 9 月 19 日、孝感（中国）
③ 櫻井龍彦「民俗創造生活、民俗重建生活」『当代社会中的伝統生活国際学術研討会』2013 年 10 月 13 日、天津（中国）
④ 櫻井龍彦「媽祖文化在日本的展開–其傳來與分佈以及吸收與利用」『2012 台中媽祖国際観光文化節-媽祖国際学術研討会』２2012 年 5 月 27 日、台中（台湾）

〔図書〕（計１件）

① 櫻井龍彦、趙彦民編著『華北地区的廟会及其民間祭祀組織（香会）的調査記録与考察－以北京・天津為中心』名古屋大学国際開発研究科、2015 年、総 470 頁

６．研究組織

(1)研究代表者

櫻井　龍彦（SAKURAI Tatsuhiko）
研究者番号：60170643

(2)研究協力者

趙　彦民（ZHAO Yanmin）
中国・山東大学文化遺産研究員副教授